日本女性新聞

発行所　東京都国分寺市本町4-13-12-4005　（〒185-0012）
日本女性新聞社
振替口座　00150-2-11547番
電話　０４２－３５９－４３１０
FAX ０４２－３５９－４３２０
©　日本女性新聞社　2015

日本女性新聞の購読お申し込みは、直接本社販売部（電話〇四二―三五九―四三一〇）へ
定価一ケ月　一、二〇〇円
e-mail：n-josei@rapid.ocn.ne.jp

国際文化交流アートフェスティバル
ORIGAMI伍江梅デザイン造形展
豊田市民文化会館Ａ展示室

理に適ったものはみな美しい
全米に手漉和紙の魅力を広げたい

リポート
かとうさとる
（いけばな作家）

【豊田】国際文化交流アートフェスティバル「伍江梅（「紙」アーティスト）デザイン造形展」が7月25日―26日、豊田市民文化会館Ａ展示室で開催された。主催＝国際文化交流アートフェスティバル実行委員会。後援＝豊田市、豊田市教育委員会、公益財団法人豊田市文化振興財団、公益財団法人豊田市国際交流協会。プロデュース＝かとうさとる。

去る7月17日（金）、アメリカのインディアナ大学芸術＆デザイン科助教授で、折り紙を応用したプロダクトデザイン「ORIGAMI」の作家として国際的に活躍している中国人アーティスト伍江梅（ウ・ジャンメイ）さんが来日。

伍さんのプロフィール

ご主人の同大学情報科学教授のロンさんと子息のディクターさんとファミリーで豊田市に滞在。昭和の本阿弥光悦と称えられた藤井達吉が主導した美術工芸和紙の小原和紙（愛知県豊田市）や世界遺産に登録された本美濃和紙（岐阜県美濃市）をリサーチする一方、とよたのアーティストと合同で、国際文化交流アートフェスティバル「伍江梅デザイン造形展」を開催。日中米の相互理解を深めた。

経緯を簡単に説明すると、豊田市在住で白日会会員として活躍する洋画家の曽剣雄さんの奥さんの楊林さんと伍さんが中国で同級生だったという関係で実現したもので、人の繋がりはコトの始まりで大切。

余談に逸れたが、伍さんは中国上海同済大学で建築都市企画デザイン学士学位を取得後、アメリカのインディアナ大学に留学。同大学でインテリアデザイン修士学位、グラフィックデザイン芸術修士学位を取得。

ORIGAMIとの出会いは、インディアナ大学に留学後、都市計画デザインやプロダクトデザインの研究をするなかで、子どもの頃、母親に教えてもらった中国式の折り紙のインスピレーションが閃いたそうだ。

理に適ったものは美しい

折り紙は理系的な要素があるというから、将棋の羽生善治4冠がチェスのレジェンドに挑んだように、伍さんが折り紙の面白さに嵌ったのも納得。

むろん折り紙と言ってもただの折り紙ではない。キャリアの物理学やコンピューター媒介変数を駆使した斬新なフォルムは他に比類がなく、何よりもシンプルで美しい。

私は幸運にもプロデューサーとして、伍さんの仕事の舞台裏を覗き見ることができたため、タネを明かすと、使用する紙質は合成紙で①コンピューター媒介変数を駆使した構造（デザイン）の決定②パーツの制作③パーツの組立④作品の設置（インスタレーション）の工程から成り、作品は国際展標準の大作から中作、小品まで自在。

今回は中作、小品のパーツを携えて来日。作業が手仕事で工数がかかるため、楊林さんの働きかけで大勢のボランティアがお手伝いしたが、初心者でも簡単に組立ができるのは、構造がプロダクトデザインの理に適っているからで、民藝に通じる用の美とでも言おうか。まさに灯台下暗しで自から鱗。

去り難さの魅力

ちなみにアートフェスの会場は豊田市民文化会館Ａ展示室。会期は、7月25日（土）・26日（日）の2日間、25日は公開制作に充てたため、実質は8時間。選択肢は伍さんのファミリーに、日本の花火のようなひと夏の記憶に残るアートフェスを打ち上げるしかない。

主旨に賛同して参加したのは伍江梅さんのほか、石川泰弘（モダンアート）、石田真典（写真）、池田富義（彫刻）、伊丹靖夫（日本画）、市川明徳（書）、大石マツエ（押し花）、加納恒（紙造形）、加納登茂美（小原和紙）、切り絵師俊寛（切り絵）、柴崎幸次（県芸大教授／デザイン）、鈴木真幸登（いけばな）、鈴木美賀子（和紙・截金）、曽剣雄（洋画）、中村広子（絵本画家）、村松さつき（津軽三味線）、私かとう（現代いけばな）の17名。

イタリアのフィレンツェの職人展でグランプリを受賞するなど気鋭の切り絵師として売り出し中の俊寛さんなど、いずれも市内や近郊に在住する地元のアーティストだが、多様な表現が織りなす空間は、真夏の夜、虫たちが奏でるオーケストラの音色のよう。

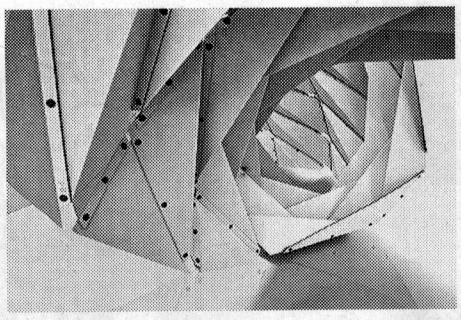
太田稔彦豊田市長をはじめ、トヨタの中興の祖、故豊田英二氏のファミリーなど、多くの市民が足を運んだが、みんな去り難いのか、時の流れがスローモーションフィルムを見るようにゆっくりと流れたのが何よりの証で、自画自賛の誹りはご容赦いただきたい。

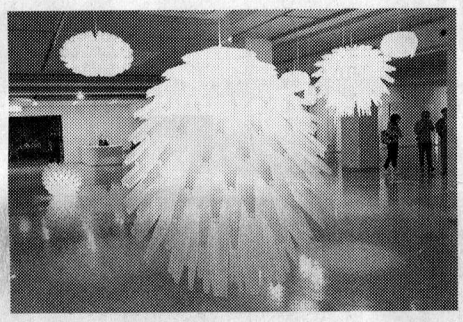
全米に和紙の魅力を

ざっと、伍江梅さんのORIGAMIと、アートフェスの概要を記したが、最後に伍さんの言葉を紹介してリポートを閉じたい。

帰国に際して伍さんは、日本のアーティストから受けた新鮮な刺激と異文化交流の大切さを語ったあと、「インディアナ大学に手漉き和紙のコースの設置を働きかけて、全米に和紙の魅力を広げたい」と抱負を語った。

今回の豊田市における和紙のリサーチとアートフェスの結果は大学に報告されるとのことだが、念願の和紙を手にした伍江梅さんとORIGAMIの新たな展開を楽しみに待ちたい。


伍江梅さんのインスタレーション（参考）

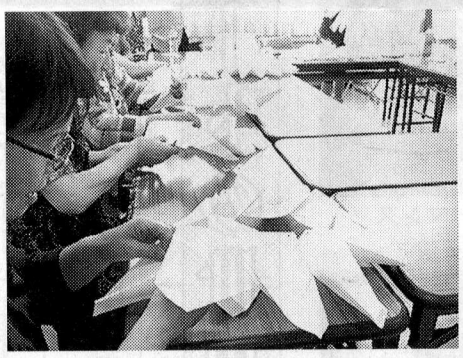

origamiの展示風景

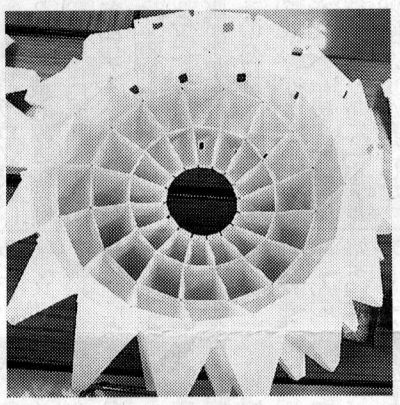
origamiの展示風景

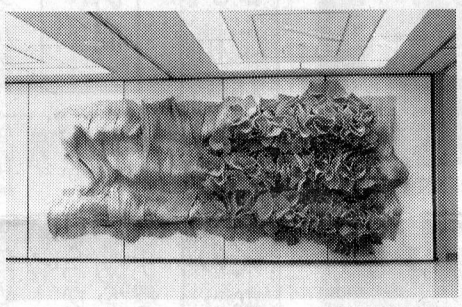
アートフェスの展示風景

origamiの作業を説明する伍江梅さん

origamiを組み立て中のボランティア


origamiを制作中のボランティア


組み立て中のorigamiの内部


かとうさとる作品展示風景
（素材・菰、着色ウレタン）

イベント・展示画廊
ギャラリーGK
〒104-0061
東京都中央区銀座6-7-16　第1岩月ビル1F
TEL. FAX　03-3571-0105
http://www.008720.com/gallery/gk.html

―はさみ―
悦郎作
東京都足立区伊興４－４－６
TEL 03-3899-5473

主な記事

二面＝東日本復興応援いけばな展・他
三面＝Ichiyoいけばなライブ・他
四面＝彩花展、彩花展審査授賞式・他

ひとこと

第6回大地の芸術祭―越後妻有アートトリエンナーレ2015が広大な里山をアートの磁場として7月26日から9月13日までひろげられ、2か月間のロングラン展を終えた。肌を焼く夏の陽射をものみ込むほどに濃緑の森や林が起伏するはざまに、多くの棚田が点在する里山の営み。生活の原風景でもある棚田の美しい群落は、里山の環境アートでもあろう。

8月初め、今回のトリエンナーレに仲間の車で飛び地伝いにコースを回った。全コースを見ての印象ではないが、第3回（06年）、いけばなが初めて参加接地した「小白倉いけばな美術館」（有志）、第4回（09年）と第5回（12年）に古民家で現代いけばなの呼吸感を新たにした「蓬平いけばなの家」（Ｆの会）の時のようなときめきは、今回の里山の磁場からは伝わってこなかった。旧作が放置されたように目に留まったことも侘しいが、たとえば今後、出展者と遠方から訪れる人たちの足をも考え、里山を巡回展的に絞り込んだ場で（出展者は限られるだろうが）作品と一体にある磁場の脈動感をさらに高めていくことも考えられよう。

もアート
せんか」

大地の芸術祭ではこんなアートの山も

第6回大地の芸術祭―越後妻有アートトリエンナー

レ駆け足あるきの中で出合った一作（越後白沢）。

内部にもアート作品があるという建物の外に。寅さんの顔よりもっと細長く角張った数千個の板材が交互に山のように積み上げられたものが目に留まった。高さ2㍍余、直径2・5㍍余、やや胴張り円錐形状のものが大小2つ、夏の陽射の中で乾燥した木の香りを放っていた。山なす材はみんな